

東日本大震災の記録と記憶

～ともに歩む復興への道～



社会福祉法人 いわき市社会福祉協議会

福祉のまちづくりを目指して



いわき市社会福祉協議会
会長 強口 暢子

3.11 東日本大震災により、お亡くなりになられた方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

また、全国の個人・団体からの寄付金や人員の派遣など、温かいご支援をいただくとともに、市内外のボランティアの皆様から大きなお力添えをいただきましたこと、心から厚く御礼申し上げます。

東日本大震災は、地震、津波、そして原発事故が重なった、世界に類を見ない複合災害として、本市に甚大な被害を及ぼしました。

いわき市社会福祉協議会といたしましても、一日でも早い復旧・復興を目指して、震災直後から多くのボランティアの皆様を受け入れるなど、試行錯誤しながらボランティアセンターの運営やボランティアのコーディネートを行って参りました。顔も知らない人同士が互いに手を取り合い、励まし合い、強い絆が生まれ、本市の復旧・復興につなげることができたと感じております。

現在は、被災された方々の生活の再建に重点を置き、生活支援相談員の訪問活動（見守り活動）や津波被災地域高齢者の交流と健康づくり事業を展開するとともに、震災により拍車がかかった地域コミュニティの弱体化に対応するため、地域福祉コーディネーター及び地域福祉支援員を配置し、地域福祉支援に取り組んでおります。さらに、平成 25 年度は、本年中の策定を予定しております「地区版地域福祉活動計画」に、昨年市内 13 地区で開催した住民福祉懇談会での住民の皆様様の「声」を盛り込みながら、「誰もが住み慣れた地域で安全で安心して暮らし続けることができる地域社会」の実現に努めてまいります。

震災で受けた傷は、目に見える形だけでなく、被災者の胸に深く刻まれています。これからも被災された皆様様の生活復興支援に力を注ぎながら本市に移り住んでおられます他市町村の皆様とともに、関係機関・団体の皆様と連携を図りながら「福祉のまちづくり」に取り組んでまいり所存です。

結びに、本誌の編集にあたりご協力いただきました関係各位に心から御礼申し上げます。

目 次

いわき市について	1	県・市及び県・他市町村社協との連携	
東日本大震災について	2	いわき市復興支援ボランティアセンター連絡会議... 17	
いわき市と他市町村の被災者避難状況	4	仮設住宅支援等に関する連絡会	
復旧・復興への歩み	5	視察研修・職員派遣	18
社協の主な動き		被災者支援事業の紹介	
災害救援ボランティアセンターの開設	10	津波被災地域高齢者の交流と健康づくり事業	20
復興支援ボランティアセンターの開設	12	地域福祉推進支援事業	21
数字から見るボランティアセンター	14	写真から見る記録	22
社協活動を活かした要介護者支援	15	感謝の集い	24
ホームヘルプセンターの取組み		0246 プロジェクト	25
生活福祉資金（緊急小口資金）の特例貸付 ... 16			
生活復興支援資金貸付		あとがき	26

いわき市について

1 面積・人口

面積：1231.35 km²

人口：329,383 人

世帯数：127,720 世帯

(平成 25 年 3 月 1 日現在)

2 市の位置・地勢

いわき市は、福島県の東南端に位置し、南は茨城県、東は太平洋に面しており、寒暖の差が比較的少ない穏やかな気候に恵まれています。

昭和 41 年 14 市町村が合併し、いわき市となりました。また、平成 11 年には、中核市に指定されました。

地形は、西方の阿武隈高地（標高 500m ~ 700m）から東方へゆるやかに低くなり、東側には、夏井川や鮫川などの河川の河口部を中心に、平野となだらかな丘陵が広がっています。

また、太平洋沿いの海岸線は、南北約 60 km にわたり、白砂青松と岩礁が繰り返し続き、「いわき七浜」と呼ばれる美しい景観を織り成しています。

3 いわき市社会福祉協議会

いわき市社会福祉協議会は、地域に暮らす皆様、区長・行政囑託員、民生児童委員、行政をはじめとする社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の御支援・御協力のもと、「誰もが住み慣れた地域で安全で安心して暮らし続けることができる地域社会」の実現をめざして様々な活動に取り組んでいます。

その実現にあたって、広域都市であるいわき市では、社協本部と、13 の地区社協が「地域福祉活動計画」に基づき、多様な福祉ニーズに応えるため、地域の特性を踏まえ創意工夫を凝らし、各種福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援、さらには、共同募金運動に取り組んでおります。

さらに、ボランティア活動センターでは、ボランティア活動に関する相談や活動先の紹介、学校における福祉教育の支援等、地域の福祉活動の拠点としての役割を果たしています。また、「復興支援ボランティアセンター」の運営を中心的に担い、災害救援活動のためのボランティアのコーディネートと被災者の生活復興支援に取り組んでいます。



いわき市社会福祉センター

東日本大震災について

1 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震

発生日時	平成23年3月11日(金) 14時46分	
震源	三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度、牡鹿半島の東南東130km付近)深さ24km	
規模	マグニチュード9.0	
その他	断層の大きさ:長さ約450km、幅約200km 断層のすべり量:最大20~30m程度 震源直下の海底の移動量:東南東に約24m移動、約3m隆起	
各地震度 (震度6強以上)	震度7	宮城県北部
	震度6強	宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り()、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部() ()いわき市は、震度6弱)

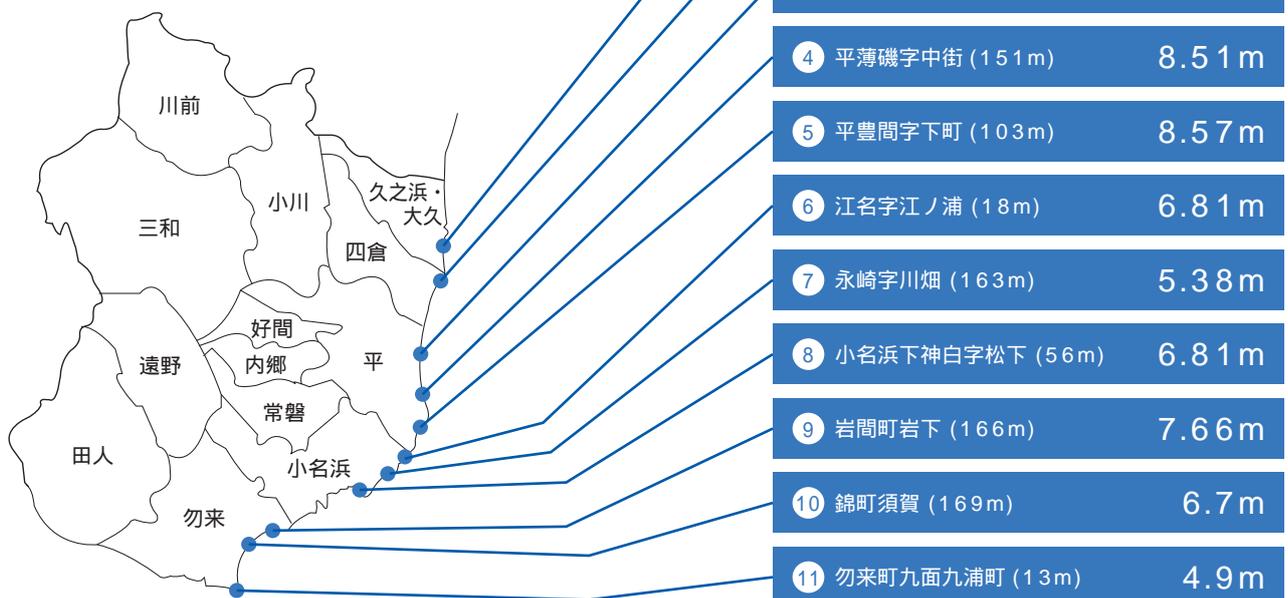


地震で、いわき市では、震度4以上の揺れが約190回以上も続き、最大の震度は6弱を観測しました。また、地震活動は本震 - 余震型で推移しており、大震災から2年を経た平成25年3月11日現在も余震が続いています。

2 いわき市を襲った津波

地震により、福島県相馬市で高さ9.3m以上、宮城県石巻市鮎川で8.6m以上の非常に高い津波を観測するなど、東北地方から関東地方北部の太平洋側を中心に、北海道から沖縄にかけての広い範囲で津波を観測しました。

市内でも沿岸部全域に津波が押し寄せ、甚大な被害をもたらしました。市内沿岸部の主な浸水高は次のとおりです。



3 いわき市の被害状況

表1 東日本大震災による被害状況（平成25年2月1日現在）

区分		被害数	備考
人的被害	直接死者数	293名	死亡認定を受けた 行方不明者 37名
	間接死者数	148名	
	計	441名	
住家被害	全壊	7,909棟	計 90,502棟 現在も調査中
	大規模半壊	7,277棟	
	半壊	25,242棟	
	一部損壊	50,074棟	
非住家被害	公共建物	118棟	本庁舎、支所など
	その他	2棟	観光物産センター、 コンピューターカレッジ
その他の被害	文教施設	205箇所	公立小中学校、公民館など
	病院	27箇所	民間病院26箇所、公立病院1箇所
	道路	2,576箇所	
	橋梁	28箇所	
	河川・水路	165箇所	
	崖くずれ	326箇所	
	水道	3,499箇所	
	下水道など	1,317箇所	
	農業土木など	316箇所	
	林道・治山	196箇所	
	農業関係施設	4箇所	
	市営住宅	59箇所	
	公園・緑地	71箇所	
	社会福祉施設	133箇所	保育園、高齢者施設など
	消防施設	139箇所	
	消防車両	34台	
	その他	36箇所	清掃センター、運動広場など



（県消防防災航空隊提供）



（いわき市提供）



いわき市と他市町村の被災者避難状況

1 いわき市の被災・避難者状況

東日本大震災・東京電力(株)福島第一原子力発電所（以下「福島第一原発」）事故によって、多くの市民が市外に避難しており、総務省の全国避難者情報システムによれば、ピーク時の平成23年10月31日には7,960人を数え、その後は横ばいで推移しています。

また、市内で津波被害を受けた沿岸地域の住民を対象にした応急仮設住宅や賃貸住宅等の一時提供住宅に入居している被災者の方々は、7,883人を超えており、内訳は表2-1のとおりになっています。

表2-1 一時提供住宅入居者集計（平成25年2月1日現在）

事 項		集計数	備 考	
一時提供住宅	応急仮設住宅	市内設置戸数	3,512戸	
		うち市民対象	189戸	
		入居世帯数	189世帯	
		入居者数	466名	
	賃貸住宅等	世帯数	2,781世帯	民間借上げ(特例含む)2,138 雇用促進住宅638、教員住宅5
		人数	7,748名	民間借上げ(特例含む)5,355 雇用促進住宅2,379、教員住宅14

2 他市町村の避難者状況

福島第一原発の事故によって警戒区域や計画的避難区域の圏内に入っている双葉郡内の町村及び南相馬市等より、2万4千人に及ぶ避難者が市内に建設された応急仮設住宅や一時提供住宅に入居しています。応急仮設住宅の設置状況は、いわき市をはじめ、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、川内村の1市5町1村を対象に、全体で3,512戸が設置されています。

表2-2 市内における応急仮設住宅の設置状況（平成25年3月31日現在）

区分	所在地	戸数 (戸)	所在地	戸数 (戸)	計
入居市町村					
いわき市	中央台高久二丁目	189			189
広野町	中央台高久二丁目	201	四倉町字鬼越	230	708
	中央台高久三丁目	16	中央台鹿島二丁目	18	
	常磐関船町迎	140	四倉町字芳ノ沢	103	
楡葉町	中央台高久二丁目	35	中央台飯野三丁目	16	1,180
	平上高久字大日作	123	平下山口字大沢	200	
	平下山口字桃木沢	202	平字作町一丁目	57	
	平上荒川字後沢、 内郷小島町服部沢	250	小名浜林城字八反田	106	
	常磐西郷町銭田	50	小名浜相子島	40	
	四倉町細谷字御殿東	40	内郷白水町長槻	61	
富岡町	平上高久字下原	90	泉玉露二丁目	220	452
	内郷宮町峰根	80	好間町上好間字忽滑	62	
大熊町	渡辺町昼野字白岩	88	鹿島町下矢田字仲沖	50	654
	鹿島町下矢田字二反田	91	好間町好間工業団地	362	
	小名浜上神白字山崎	63			
双葉町	南台三丁目	259			259
川内村	小名浜大原字東橋本	20	四倉町字鬼越	50	70
					3,512

復旧・復興への歩み

黒字：社協の取組み

緑字：市の取組み

青字：一般事項

平成23年
3月11日

- 14:46 三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震 (M9.0) が発生 (本市震度 6 弱)
- 14:49 気象庁が大津波警報を発表
- 14:50 市災害対策本部を設置 (市消防庁舎内) 避難所開設、食料・寝具等調達を開始
- 14:51 市内沿岸部全域に対し、防災無線で避難指示 避難所への食料配送を開始 (~ 8/19 まで) 市内のほぼ全域で約 13 万戸が断水 福祉センター内利用者及び職員の避難誘導 いわき市災害対策本部より情報収集



3月12日

- 15:36 福島第一原発 1 号機で水素爆発 高齢者等要援護者の安否確認を開始 送水系基幹管路の復旧が完了し、配水池へ送水を再開 いわき平競輪場に、支援物資集配コーナーを設置 津波被災地区における道路上などの流出ガレキの撤去を開始 いわき市災害対策本部より情報収集 介護保険制度利用者の安否確認を開始 (ホームヘルプセンター) 緊急連絡カード配備世帯安否確認を開始 (民生児童委員と連携) 本会事業参加者の安否確認を開始 職員の安否確認を開始 救援物資配布補助等の避難所支援を開始 社協職員 (係長職以上) による対応等の協議

緊急連絡カード	
火事・救急車 119 番 警察 110 番	
氏名	姓 名
住所	〒 市 区 町 丁目 番 号
電話番号	住居用 事業用
緊急連絡先	氏名 住所 電話番号
家族構成	家族構成 (住居/施設等)
その他	

3月13日

- 08:00 市独自で久之浜・大久地区に自主避難を要請
- 17:58 市内沿岸部の津波避難指示が解除 市保健所にて放射線スクリーニング検査を開始 社協職員 (係長職以上) による対応等の協議

3月14日

いわき市・災害ボランティアいわき・いわき市社会福祉協議会の3者で「いわき市災害救援ボランティアセンター」開設について協議

- 11:01 福島第一原発 3 号機で水素爆発

3月15日

- 06:14 福島第一原発 4 号機が水素爆発により一部損壊

3月16日

- 05:45 福島第一原発 4 号機の建屋 4 階部分で火災が発生
- 10:00 「災害救援ボランティアセンター」を開設 いわき市・災害ボランティアいわき・いわき市社会福祉協議会 ホームページ等で情報の提供 断水した社会福祉施設に温泉入浴車を給水車として貸し出す (~ 4/18 まで) ホームヘルプセンター職員、避難所での要介護者の支援 (24 時間体制) アリオス 3/16~3/17、内郷コミュニティセンター 3/18~3/29 救援物資の仕分けボランティアの調整

3月18日

妊婦・40歳未満の市民に安定ヨウ素剤の配布を開始

「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」いわき入り現地調査
市の生活支援プロジェクトチームに参画(職員2名を派遣)

3月19日

社会福祉施設からの要請により、介護有資格者または介護経験者ボランティアによる施設支援を行う
(~4/14まで)

3月20日

社会福祉施設等への支援物資配布に協力

3月21日

被災者等への支援物資配布に協力

3月23日

07:12 福島県浜通りを震源とする M6.0 の地震が発生(本市震度5強)

07:36 福島県浜通りを震源とする M5.8 の地震が発生(本市震度5強)

18:55 福島県浜通りを震源とする M4.7 の地震が発生(本市震度5強)

市内の水道復旧率が5割に

3月25日

11:46 内閣官房長官記者会見にて、福島第一原発の半径20~30km圏内の住民の自主避難を促す

3月26日

九州ブロックの社会福祉協議会職員が、いわき市災害救援ボランティアセンター運営支援に入る

4月4日

「いわき市災害救援ボランティアセンター」の拠点をいわき市社会福祉協議会に置き、被災者宅屋内
外の土砂除きや片付け、清掃等を中心に、ボランティアによるよりきめ細やかな被災者支援に対応
生活福祉資金(緊急小口資金)の特例貸付を各地区協議会で開始(~4/28まで)

4月9日

いわき市勿来地区災害ボランティアセンター開設(~5/20まで)
(NPO法人勿来まちづくサポートセンターと連携)

4月10日

市内水道がほぼ復旧(津波や地滑りの被災地区を除く)

4月11日

17:16 福島県浜通りを震源とする M7.0 の地震が発生(本市震度6弱)

同日の余震により市内約10万戸が再び断水

4月12日

14:07 福島県浜通りを震源とする M6.4 の地震が発生(本市震度6弱)

ツイッターによる情報配信を開始

4月16日

一時提供住宅(雇用促進住宅・民間借上住宅)提供を開始

市義援金の配布を開始

4月19日

いわき市小名浜地区災害ボランティアセンター開設(NPO法人ザ・ピープルと連携)



4月22日

市被災救助費等、各種給付金の支給を開始

4月23日

ゴールデンウィーク等介護相談窓口を開設
(4/29、30、5/3、4、5、7、14、21、28)

4月24日

ブログによる情報発信を開始

4月27日

「いわき市災害救援（現復興支援）ボランティアセンター連絡会議」に参画

5月1日

各地区協議会において、地域福祉活動を再開（いきいきデイクラブ、子育てサロン等）

5月20日

いわき市社協だより臨時号を発行（震災特集号）

5月21日

ホームヘルプセンターを中心にボランティアへの炊き出しを実施
(6/4、7/2、23、11/12)



6月18日

「東日本大震災久之浜・大久地区合同供養祭」に協力

7月

生活支援相談員（6名）を配置し、一時提供住宅等に入居している被災者の見守りと安否確認を開始
中央台高久第一仮設住宅管理業務を開始

7月31日～

救援物資配布会（各地区雇用促進住宅）に協力

8月2日

「新潟・福島豪雨」における金山町災害ボランティアセンター開設に伴う支援物資の搬入のため、職員を派遣

8月8日

「いわき市復興支援ボランティアセンター」及び「小名浜地区復興支援ボランティアセンター」へ機能・名称を変更
災害救援ボランティアを木、金、土曜日のみ受け入れに変更

8月24日

「第1回ふるさとサロン」を地域包括支援センターとの共催により久之浜第一小学校で開催
(第2回は9/28開催)

8月29日

「応急仮設住宅等入居者支援会議」の開始

9月

「市復興ビジョン」を策定

9月1日

生活支援相談員11名体制

9月30日

「仮設住宅支援等に関する連絡会」に参画（現在も継続中）

10月

「市復旧計画」を策定

10月2日

中央台高久第一仮設住宅自治会組織立ち上げ支援

11月1日

災害救援ボランティアを金・土曜日のみ受け入れに変更

11月12日

「感謝の集い」をいわき芸術文化交流館アリオスで開催
内郷雇用促進住宅自治会組織立ち上げ支援

12月

「市復興事業計画（第一次）」を策定

12月5日

中央台高久第一仮設住宅集会所に子どもの居場所づくりのために「なかよしひろば」を開設
(～H24.4/30)

12月9日

いわき市社協だより臨時号を発行（震災特集号）

12月15日

小名浜地区津波被災地域を対象にした「地域リフレッシュお出かけサロン」の開催
(H24.2/20、21)

平成24年

2月28日

「津波被災地域高齢者の交流と健康づくり事業(いきいき交流サロン)」を開始

3月1日

生活支援相談員 15 名体制

3月10日

なこそその希望「鎮魂祭」に協力

3月11日

いわき市主催「3.11いわき追悼の祈りと復興の誓い2012」に参加
「0246プロジェクト」を社会福祉センターで開催

4月1日

復興支援ボランティアセンターをボランティア活動センターに位置付け、専任職員を配置し体制の
強化を図る

災害救援ボランティアは、金曜日のみ受け入れ（現在も継続中）

6月1日

生活支援相談員 25 名体制

生活支援相談員を勿来、常磐（内郷に編入〔10/1〕）、内郷地区社協に配置

6月17日

「3.11被災者を支援するいわき連絡協議会（みんなく）」の設立支援

7月26日

「九州北部豪雨」における熊本県阿蘇市災害ボランティアセンター支援のため職員を派遣
(8/2まで)

8月1日

生活支援相談員を小名浜地区社協に配置

8月7日

平七夕まつりに初参加（飾り付けコンクール特別賞を受賞）

8月18日

「第1回傾聴ボランティアフォローアップ講座」を開催（ ）
（第2回は10/20、第3回は12/15開催）

10月31日

住民福祉懇談会を市内13地区で開催（～3/14）

12月

「市復興事業計画（第二次）」を策定

12月1日

地域福祉推進支援事業の開始に伴い、地域福祉支援員を7名配置

12月22日

「ぼくとわたしの海辺のクリスマス事業」を潮目交流館で実施（ ）

平成25年
1月

地域福祉コーディネーターを5名委嘱（地域福祉推進支援事業）
地域福祉支援員を平、小名浜、勿来、常磐、内郷、四倉地区社協に配置
（平成25年4月より小川地区社協に配置）

1月21日

「介護巡回相談事業」を開始（ ）

2月10日

本会職員がボランティアスタッフとしてサンシャインマラソンに参加（みそ汁や温かい飲み物をランナーに提供）

2月16日

「学生ボランティア・視察研修」のため前橋市を訪問（ ）

3月11日

いわき市主催「3.11いわき追悼の祈りと復興の誓い2013」
に参加

3月16日

「0246プロジェクト」をいわき芸術文化交流館アリオスで開催

3月29日

「春休みを利用しての子育てサロン」を小名浜市民会館で開催（ ）



（ ）は、韓国共同募金会からの寄付金によって実施

社協の主な動き

1 災害救援ボランティアセンターの開設

被災者の早期復旧・復興を目指して

震災発生直後、被災者の支援と一日でも早い復旧・復興を目指し、いわき市、災害ボランティアいわき、市社会福祉協議会の3者でボランティアの窓口対応・役割分担、ボランティア保険の取り扱いなどについて協議を行い、3月16日に、「いわき市災害救援ボランティアセンター」を開設し、ボランティアの受け入れを開始しました。

しかしながら、どのようにボランティアを受け入れ、支援を必要とする人々との橋渡しを円滑に行うことができるのか右往左往の状況の中、3月18日に中央共同募金会などの「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」が現地調査、3月26日には、九州ブロック社協職員がボランティアセンターの運営支援に入り、適時適切なアドバイスを受けながら、本格的に災害ボランティアセンターを機能させることができました。

4月4日には、市災害救援ボランティアセンターの窓口を本会に一本化し、ガレキ処理や家の片付け、被災者の話し相手など、多岐にわたるボランティアニーズのコーディネートを一層円滑にできるようになりました。

また、いわき市や本会のほか、災害支援に係るNPO法人や各種団体等との情報共有や連携を図るため、いわき市、NPO法人いわきNPOセンター、NPO法人シャブラニール、NPO法人ザ・ピープル、NPO法人勿来まちづくりサポートセンターなどによる「いわき市内災害ボランティアセンター連絡会議」を4月27日から随時開催し、被災者支援の強化につなげました。



被災者宅屋内のガレキを撤去するボランティア



ボランティアの受付を行うスタッフ

無我夢中の25日間

あの日、私たち社協の職員も地震の揺れと津波の大きさに恐怖を覚えながら、福祉センターの利用者を避難場所へ誘導しました。

その後、情報の少なさと原発事故の恐怖と向き合い、ただただ、「災害ボランティアセンターを立ち上げなきゃ」という想いだけが先行していたように思います。

知識や経験も少なく、社協職員として、「できることをしなきゃ」という思いが強かったのですが、できることは、本当に少なく、自分たちの小ささに胸を痛くしたことを覚えています。

ちょうど、その頃に、九州ブロックの社協職員の応援が入り、災害ボランティアセンター運営のノウハウを指導していただき、震災から25日目やっと、全国からのボランティアさんを受け入れることができるようになりました。

私たちが日常的にその心構えと知識を備えていれば、被災されたもっと多くの方々へボランティアさんを送り出すことができたかもしれません。今、振り返って、それを想うと悔やまれて涙が止まません。

私たちは、その悔しさを忘れず、いわきのために全力で活動していきたいと思えます。

いわき市社会福祉協議会職員



全国からのボランティア及び社協スタッフ

復興への想いをひとつに

震災直後からボランティアの申し込みや震災に関する問い合わせが数多く寄せられ、市災害救援ボランティアセンターでは、ボランティア登録や紹介ニーズの受付を行い、被災者とボランティアとの橋渡しを行いました。

ボランティアは、ガレキ処理や家の片付け、被災者の話し相手など、多種多様なニーズに応じて支援を行い、本市の早急な復旧・復興に努めました。

また、運営にあたっては、九州ブロックをはじめ全国の社会福祉協議会や災害ボランティア活動支援プロジェクト会議など延べ 350 名を超える職員の支援を得て活動してきました。



日本各地から約 5 万人を超えるボランティアが駆け付けてくれました！



様々な問い合わせに対応する職員



運営スタッフによるミーティング

今回の震災では、阪神淡路大震災(平成 7 年)及び新潟県中越地震(「平成 16 年新潟県中越地震」「平成 19 年新潟県中越沖地震」)等での教訓を活かし、全社協主体による社協等関係団体の全国ネットワークを活用しながら、全国規模でブロックを単位に継続的に社協職員を派遣することで、被災地の災害救援ボランティアセンターの運営支援を行いました。このことにより、被災地の社協等関係団体、あるいは周辺地域のネットワークでは対応が難しい場合でもニーズの緊急性や多様性、継続性に対応する取り組みが可能となったため、次のような対応になりました。

福島県：九州ブロック〔福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、北九州市(政令指定都市)、福岡市(政令指定都市)〕、
関東ブロック〔茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、千葉市(政令指定都市)、さいたま市(政令指定都市)〕

これからもともに...

「何から手をつければいいのか...お願いします、力を貸してください...」

災害発生から15日後、「助けてほしい」被災者と「役に立ちたい」と駆けつけてくれるボランティアを結びつける「ボランティア紹介所」の開設準備が始まりました。

自信などまったくありませんでした。ただただ、センターを立ち上げたいという職員の想いをかなえたいという一心でした。

5か月後、再びいわきを訪れた私は、正直、驚きました。そこには、あの意気消沈していた職員さんが、満面の笑顔でボランティアを迎えている姿があったのです。



また、熊本のマニュアルでスタートしたセンターは、2回目以降の参加者のオリエンテーションを省略するなど様々な改善を重ね、熊本県先はるかに効率の良い『いわき方式』に発展し運営されていたのです。

「来てくれて、ありがとう」「また来てくれて、ありがとう」というボランティアへの感謝の気持ちを忘れない職員の基本姿勢にも、大きな感銘を受けました。

九州からの支援は終了しましたが、いわき市社協との間に生まれた絆を大切にしながら、いつまでもいつまでもいわきを応援し、見守り続けて行きたいと思えます。

熊本県社会福祉協議会 ボランティアセンター所長 江口 俊治 氏

2 復興支援ボランティアセンターの開設

災害救援から生活支援へ

震災から3か月が過ぎると、被災者の一時提供住宅等への入居が進み、被災者のニーズがそれまでの「災害救援」から「生活支援」や「コミュニティづくり」などへ変化していきました。

このため、7月からは、生活支援相談員を配置するとともに、8月8日には、「災害救援ボランティアセンター」から「復興支援ボランティアセンター」へ名称及び機能を変更し、引き続き被災家屋内の片付けなどの災害救援活動を行うとともに、被災された方々の見守りや悩み相談、さらには、生きがいづくりの場の提供などの生活復興支援に取り組むことにしました。

また、平成24年4月からは、「いわき市復興支援ボランティアセンター」を本会ボランティア活動センターに位置付け、専任職員を配置して、組織としても被災者の生活復興支援の強化を図っています。



ニーズ受付の様子

生活支援相談員配置事業

被災者の「心のケア」に重点を移して

平成23年7月から被災者の生活復興に向けて、生活支援相談員を配置し、一時提供住宅等における被災者の見守りや、訪問活動とおした生活状況の把握、福祉制度等に関する情報提供、被災者を中心とした交流の場づくり（定期交流サロン、お茶会、イベントなど）に取り組んできました。

さらに、平成24年6月から、10名増員して25名体制とし、各地区へ配置して、地域の方々や関係機関との連携をより一層強化し、支援体制の充実を図っています。



研修会の様子



生活支援相談員による被災者宅の訪問活動



被災地域マップづくり

定期交流サロンやお茶会での活動

“つながり”の構築

いわき市全体や地区における被災者の個別ニーズを把握した上で、地域の交流の場づくりを目的に、生活復興に向けた相談会や定期交流サロン・お茶会などを応急仮設住宅などにおいて453回(14頁図-2参照)開催しています。

具体的には、親子で楽しむ「木工ひろば」や趣味を活かした「絵手紙教室」、介護予防の「健康体操」、就職相談会など、地域のボランティアの方々と協力しながら行っています。今後も地域住民が参加できるよう創意工夫をして、輪を広げ、充実を図ります。



ボランティアによる本棚づくり



ボランティアによるマジックショー
に夢中になる子どもたち

笑顔と元気で寄り添ういわき



支援者と交流する子どもたち

私たち、生活支援相談員は、“笑顔と元気で寄り添ういわき”をモットーに応急仮設住宅・雇用促進住宅・借り上げ住宅を訪問し、被災された方の見守り活動を行っています。

現在は、被災された方により近い存在であること、各地区の他機関と連携を強化することを目的に、生活支援相談員の拠点を平、小名浜、勿来、内郷に置き、地域に密着した支援に心がけています。

なお、月1回程度、各地区保健福祉センター・地域包括支援センター等と担当者会議を開催し、訪問状況の報告やケース検討を行っています。

当初は、支援に戸惑いも多くありましたが、会議等で話し合いを重ねることで、徐々にそうした不安が消えていくのを感じました。

今後も、交流会などに参加してくださるボランティアの方々に被災されている方の現状を伝えながら、応急仮設住宅や雇用促進住宅の集会所において交流会の開催や双葉郡内の町村、地区社協や地域福祉支援員と連携を図りながら、少しでも地域に笑顔があふれるような取り組みをしていきたいと思っています。

生活支援相談員

3 数字から見るボランティアセンター

震災直後から全国各地より多くのボランティアが駆け付けてくださり、延活動者数は、平成23年11月に5万人を超えました。図1-1のとおり、ボランティア活動者数が5月の14,878名をピークに減少していますが、震災から4か月が経過した7月より、被災家屋片付けなどの「災害救援」から被災者の心のケアのような「復興支援」へと図1-2のとおりニーズが移り、生活支援相談員による訪問件数が増加していききました。

図1-1 ボランティア活動者数及びニーズ受付件数推移（平成23年3月～平成25年2月）

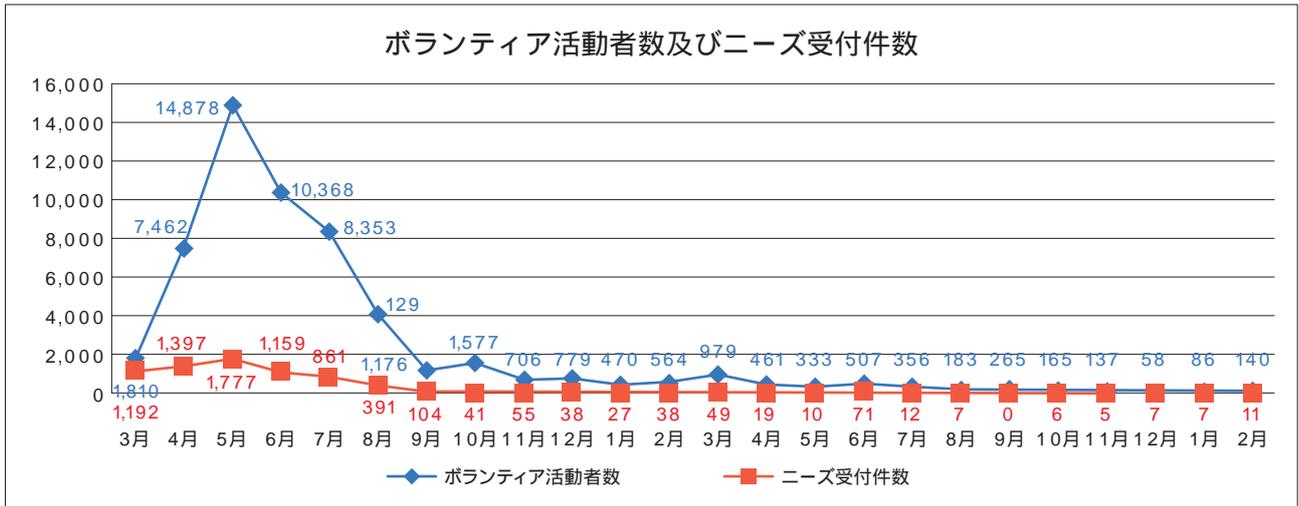
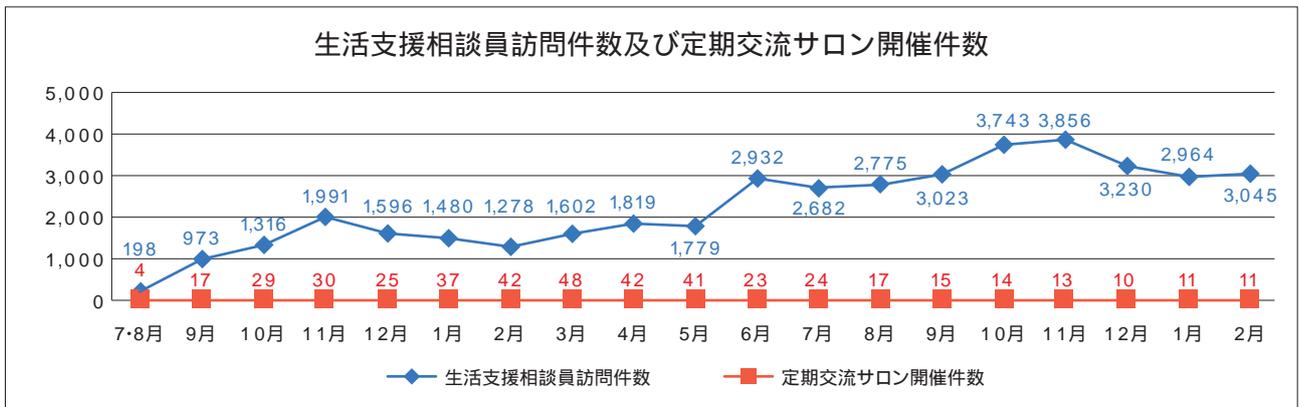


図1-2 生活支援相談員訪問件数及び定期交流サロン開催件数推移（平成23年7月～平成25年2月）



応援メッセージ

全国各地から応援メッセージを頂き、私たちの被災者支援活動の原動力となっています。

平成24年3月11日、平成25年3月16日の「0246プロジェクト」開催時は、社会福祉センター内にメッセージを掲示し、訪れた市民の方々やボランティアの皆さんにご覧になって頂いています。



4 社協活動を活かした要援護者支援

ネットワークのフル活用

震災直後からいわき市災害対策本部から情報収集を行うとともに、区長、行政嘱託員、民生児童委員など地域の関係団体と連携を図りながら、事業参加者、緊急連絡カード配備世帯、介護保険制度利用者の安否確認に努めました。

また、各地区災害対策本部と連携を図り、避難所支援や支援物資の配布など、様々なニーズに対して迅速に対応してきました。



中でも、東京都社協主体による民間運送会社を活用した支援物資の運搬支援（4月1日～5月31日 運搬件数222回）は、当時ガソリン不足だったため、支援の届きにくい地域や要援護者に対して有効な支援となりました。

震災から2カ月が経過した5月からは、従来取り組んでいた地区社協の地域福祉活動（いきいきデイクラブ、子育てサロンなど）を再開することができ、地域住民の福祉課題を把握するとともに、解決に向けた地域福祉の推進に努めています。

5 ホームヘルプセンターの取組み

災害時のQOL（生活の質）の維持・向上をめざして



生活水の確保のため、
温泉入浴車を貸出

ホームヘルプセンターでは、生活用水確保のため、高齢者施設や障がい者施設などへ温泉入浴車を貸出し、入所者の利便を図りました。また、内郷コミュニティセンターといわき芸術文化交流館アリオス（3月16日～3月29日）において、オムツ交換や服薬管理、見守りなど要援護者の介護支援のため、24時間体制での支援を行いました。

さらに、避難所巡回や移送サービス、物資（飲料水、食料品など）の配布相談業務を行い、災害時のQOL（生活の質）の維持・向上に努めました。

6 生活福祉資金（緊急小口資金）の特例貸付 生活復興支援資金貸付

生活福祉資金（緊急小口資金）の特例貸付

被災者の生活を支援

平成 24 年 4 月 4 日から 4 月 28 日まで、東日本大震災で災害救援法の適用となった地域に住所を有し、当座の生活費を必要とする世帯を対象に、生活福祉資金（緊急小口資金）の特例貸付が実施されました。

本貸付業務にあたっては、関東ブロック社協・福島県社協から延べ 47 人の貸付班の応援を受け、災害救援班とともに被災者を包括的に支援してきました。

表3 生活福祉資金(緊急小口資金)の特例貸付件数（平成23年4月28日現在）

地区	貸付件数	貸付金額
平	2,667	3 億 6,360 万円
小名浜	2,290	3 億 2,250 万円
勿来	890	1 億 2,540 万円
常磐	787	1 億 890 万円
内郷	547	7,750 万円
四倉・久之浜大久	264	3,800 万円
遠野	52	710 万円
小川	34	490 万円
好間	194	2,630 万円
三和	5	80 万円
田人	4	70 万円
川前	2	30 万円
合計	7,736	10 億 7,600 万円



生活福祉資金貸付事務
を行う本会職員



被災者からの相談を受ける本会職員

生活復興支援資金貸付

復興・復旧に向けた貸付を開始

平成 23 年 7 月 25 日より実施している生活復興支援貸付資金は、東日本大震災で被災した低所得世帯に対し、必要な相談、支援及び当面の生活に必要な経費等の貸付（一時生活支援費・生活再建費・住宅補修費）を行うことにより、生活の復興を支援するための制度です。

県・市及び県・他市町村社協との連携

1 いわき市復興支援ボランティアセンター連絡会議

被災者の包括的支援を目指して

いわき市は、災害支援に係るボランティアや NPO 法人や各種団体等との情報共有や連携を図ることを目的として、地区復興支援ボランティアセンター、NPO 法人いわき NPO センター、NPO 法人シャプラニールなどの参加により、平成 23 年 4 月 27 日から「いわき市内災害ボランティアセンター連絡会議」を社会福祉センターで開催しています。8 月 11 日からは実態に合わせて「いわき市復興支援ボランティアセンター連絡会議」に名称を変更しています。

会議では、支援の内容が交流や見守りなどへ移行していることを踏まえ、生活支援相談員の立場や役割の認識、イベント・サロンの持ち方や、他 NPO 法人、民間企業との連携、生活支援に関する役割分担、また、多くの双葉郡内町村の被災者の方々が移り住んでいることを念頭に、これら町村とどのように連携していくかなどのテーマについて、活発な協議がなされています。



ボランティアに関する機関・団体が参加し、「いわき市復興支援ボランティアセンター連絡会議」を開催

2 仮設住宅支援等に関する連絡会

新たなコミュニティの構築に向けて



「仮設住宅支援等に関する連絡会」での情報共有（福島県社会福祉協議会提供）

いわき市には、原発事故の影響（4 頁参照）により浜通りの避難者が数多く移り住んでおり、他町村の仮設住宅（36 箇所・3,512 戸）が設置され、借り上げ住宅などを含めると避難者は 2 万 4 千人を超えています。

他町村からの避難者にとって、新しいコミュニティでの生活は、風土の違い、暮らす人とのつながりもゼロからのスタートとなり、震災で受けた傷に加わえ、故郷のコミュニティとは違う「新しい日常」の中で心身ともにストレスを抱える状況であるとの声が、聞かれるようになりました。

そのような中、避難町村の社協から、地域の社会資源を把握している本会との連携が必要であるという要請のもと、福島県社協が主体となり、避難町村と本会が社会福祉センターに一堂に会し「仮設住宅支援等に関する連絡会」を平成 23 年 9 月 30 日より毎月開催しています。

「仮設住宅支援等に関する連絡会」では、避難町村の社協との情報共有を図るとともに、多様な福祉ニーズに対して協議を進めています。

今後は、いわき市のコミュニティの再構築を図るとともに避難町村の住民との交流を強化するとともに、地域の関係機関・団体との連携を深めながら、避難町村の住民との新たなコミュニティづくりの支援を行っていきます。

3 視察研修・職員派遣

「つながり」が途絶えることなく

本会では、震災以降多くの市町村社協や関係団体等の視察研修を受け入れる（40 団体）とともに、市外の研修会へ職員を派遣（23 件）してきました。

震災をとおして「つながり」が生まれた地域、震災を経験した本市の活躍を今後の取り組みの手本にしようという関心を抱いてくれた地域などとの視察研修をとおして多くのネットワークを構築することができました。

今後も「つながり」を絶やすことなく、互いに支え合える関係を維持し、交流していきたいと思ひます。



前橋市社会福祉協議会より
ボランティアセンターののぼりが寄贈



山武市社会福祉協議会
視察研修受け入れ



震災から 2 年 忘れない 3.11
I Love Fukushima に会長が参画
(篠山市社会福祉協議会提供)



九州ブロック地域福祉
研究会議へ職員を派遣
(長崎県社会福祉協議会提供)

平成23年度 視察研修受け入れ

6月29日	東日本大震災支援全国ネットワーク	11月24日	世田谷区松原地区民生児童委員協議会
8月22日	自由民主党東京都支部連合会青年部・青年局	2月14日	守谷市社会福祉協議会
10月23日	会津若松市障害者の明日を考える会	2月22日	前橋市桂萱地区社会福祉協議会
11月4日	会津若松市ボランティア連絡協議会	2月26日	会津坂下町福祉ボランティア連絡協議会
11月18日	みなかみ町民生児童委員協議会月夜野支部		

平成24年度 視察研修受け入れ

6月4日	品川区荏原第1地区民生児童委員協議会	10月29日	福島市社会福祉協議会第五地区協議会
6月5日	ひたちなか市湊第2地区民生児童委員協議会	11月2日	川崎市多摩区社会福祉協議会
6月15日	前橋市大胡地区民生児童委員協議会	11月5日	片品村社会福祉協議会
6月25日	結城市社会福祉協議会	11月14日	富里市民生児童委員協議会
7月4日	小川町社会福祉協議会	11月19日	中央市豊富地区民生児童委員協議会
7月6日	笠間市社会福祉協議会	11月20日	羽生市民生児童委員協議会
7月12日	四街道市社会福祉協議会	12月5日	松本市社会福祉協議会
7月26日	日立市社会福祉協議会宮田学区コミュニティ推進会	12月10日	笠間市社会福祉協議会
7月27日	前橋市ボランティア連絡協議会	1月14日	大阪市社会福祉協議会
9月10日	川口市鳩ヶ谷地区社会福祉協議会	2月6日	国分寺市社会福祉協議会
9月11日	杉並区民生児童委員協議会	2月13日	山武市社会福祉協議会
10月15日	入間市豊岡第一民生児童委員協議会	2月21日	白井市南山中学校区地区社会福祉協議会
10月20日	株式会社アベックス	3月4日	小平市社会福祉協議会
10月24日	葛飾区民生児童委員協議会	3月11日	栄町社会福祉協議会
10月24日	南九州市知覧町民生児童委員協議会	3月19日	白井市社会福祉協議会(一般市民)
10月25日	川越市大東地区民生児童委員協議会		

平成23年度 市外の研修会へ職員を派遣

10月27日	市川市地域福祉基本フォーラム(千葉県)	2月4日	九州社協職員合同研究会議(佐賀県)
11月4日	第42回大分市社会福祉大会(大分県)	2月6日	災害ボランティア研修会(鹿児島県)

平成24年度 市外の研修会へ職員を派遣

4月18日	小美玉市地域ケアシステム実務者会議(茨城県)	1月13日	平成24年度地域の福祉力セミナー(兵庫県)
4月21日	福島県いわき市への市民ボランティア活動集会(群馬県)	1月25日	市町村社協生活支援相談員等研修会(福島県)
7月11日	九州ブロック地域福祉研究会議(長崎県)	1月27日	ボランティア講演会(宮崎県)
8月25日	災害ボランティアセンター運営研修会(宮崎県)	2月24日	災害ボランティアセンター・立ち上げ運営訓練(千葉県)
9月8日	南九州共感ボランティア養成講座(鹿児島県)	2月26日	平成24年度災害ボランティアセンター運営者研修会(大阪府)
9月9日	山鹿市災害に強い地域づくりシンポジウム(熊本県)	3月2日	東日本大震災復興支援活動報告会(東京都)
9月10日	平成24年度市町村社協ボランティアコーディネーター研修会(熊本県)	3月19日	篠山市社協職員研修(兵庫県)
10月22日	災害ボランティアセンター・NPO活動サポート募金第7回運営委員会(宮城県)	3月19日	篠山市日置地区人権研究大会(兵庫県)
11月24日	ぐんまボランティアフォーラム2012(群馬県)	3月20日	震災から2年 忘れない3.11 I Love Fukushima(兵庫県)
12月4日	肝付町社会福祉大会(鹿児島県)		

進んできましたよね！互いに支え支えられる関係づくり。

発災から約1ヶ月経過した頃、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の運営支援者としていわき市に。4月11日、12日に震度6弱の余震があるなど混沌としていましたが、その1つ1つを乗り越えて、地元の皆さんの頑張りや外部の応援が大きな力にまとまっていくのを感じる日々でした。その後、前橋市社協としてもいわき市社協を応援させていただくことになり、5泊6日を20クルの職員派遣や、コーディネーター添乗の市民ボランティアバスの運行などを通じ関係を深めてきました。

活動が復旧から復興・生活支援に移りゆく24年度に入り、強口会長はじめ職員の皆さんに群馬までお越しいただき、ご講演等いただきました。異口同音に「自治体間、社協間としての交流だけでなく、市民が互いに顔が分かり、支え合う、思いを寄せ合う関係を築いていくことが必要」とのお話を伺い、今では職員、民生委員児童委員やボランティア連絡協議会、学生ボランティア等の相互交流の輪を広げております。最近では、両社協の職員間での気軽な相談のやり取りが見受けられるようになったのが嬉しい私です。(写真は前橋で販売中のいわき・木村ミルクプラントのアイスと私)



前橋市社会福祉協議会ボランティアセンター 高山 弘毅 氏

被災者支援事業の紹介

1 津波被災地域高齢者の交流と健康づくり事業 ～いきいき交流サロン～

被災地域のネットワークの再構築を目指して

津波被災地域に居住している高齢者と、津波被災地域から市内の一時提供住宅等に避難している高齢者を対象に交流の場を設け閉じ込めりの防止や生活相談・健康相談を実施し、高齢者の生活についてサポートすることを目的に、平成24年2月から開催しています。

震災により離れ離れになっていた被災者の皆さんが入浴や懇談をとおして交流を楽しんでいます。

また、午前中のシルバーリハビリ体操に加え、午後の自由時間を活用して、関係機関や民間団体と連携して様々な支援を行っています。

<主な活動>

- ・口腔ケア教室
- ・心のケア相談
- ・福祉レクリエーション
- ・ものづくり体験
- ・アロマセラピー

<実施回数・延参加者>

実施回数 152回
延参加者 3,624名
(平成25年3月31日現在)

開催場所 新舞子ハイツ、勿来の関荘、ゆったり館
開催日 火・水・木曜日

時間	内容
10:00	開会
10:10	健康相談、血圧測定 自由時間(入浴及び懇談)
11:30	シルバーリハビリ体操
12:00	昼食 自由時間(入浴及び懇談)
14:00	閉会



お手玉を使った的入れゲーム



シルバーリハビリ体操で介護予防



生活相談、健康相談をする参加者の皆さん

笑顔で 島 光(復興)

黒く大きな波が、安心・安全だと信じていた防波堤をゆうに乗り越えてしまい、一瞬にして家をはじめ、家族・友人・職場・仕事等を奪っていきました。恐怖心と深い悲しみの中、住み慣れた土地から離れた土地へ余儀なく移転させられた心の葛藤は続いています。隔絶された人間関係の復興の場として「いきいき交流サロン」が始動しました。

緊張しての添乗業務初日、参加者の方から、津波で流されて残った跡地を指さし、「ここにも家があった。あそこまで、ずっと家があった」と教えていただきました。現実の悲惨な光景を目の当たりにし、人生経験の多い高齢者の皆さんに、自分はどうか応えていけばいいのか悩んだ末、ありのままでもいい、同苦の心で温かい心と笑顔で支援していこうと、私たちの心は定まりました。

参加者の皆さんから「懐かしい顔ぶれに逢えてうれしい」「元気になった」のお声を寄せていただきました。これからも参加者の皆さんの健康づくりと一人でも多くの笑顔で福島光(復興)交流の場となるようスタッフ一同努めてまいります。



いきいき交流サロンスタッフ

2 地域福祉推進支援事業

住民主体の地域づくりを目指して

少子・高齢化や東日本大震災の影響による地域コミュニティの弱体化に伴い、閉じ込めりや孤独死などの社会的な問題が表面化しています。

このため、本会では、地域住民が主体となり、地域の組織を中心とした地域住民支え合いの仕組みづくりを支援するため、地域福祉支援員7名を配置するとともに、専門的な見地で相談・助言をいただく地域福祉コーディネーター5名を委嘱しました。

現在、地域の区長、行政嘱託員、民生児童委員をはじめ、関係機関・団体と協働・連携しながら各地区協議会が中心となり、「誰もが住み慣れた地域で安全で安心して暮らし続けることができる地域社会」の実現に向けて取り組んでいます。



地域の架け橋役を担う
地域福祉支援員

< 活動内容 >

地域状況の把握

広く住民の生活実態や福祉課題等の把握に努め、地域の福祉ニーズに沿った活動を進めます。

住民支え合い活動の仕組みづくりの支援

住民の地域福祉への関心を高めるとともに、その自主的な取り組み活動を支援します。



職員間での情報共有



地域の区長と地域の
課題について協議



地域包括支援センターと連携
し、地域ニーズについて協議



事業を通して地域住民と交流

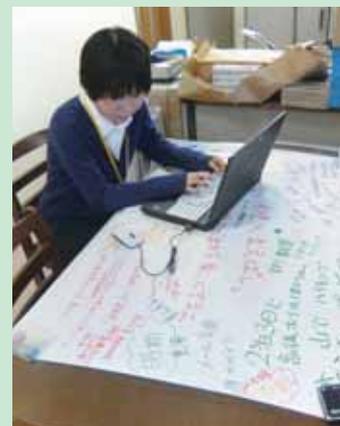
住民同士が支え合う地域へ

地域福祉支援員は、それぞれの担当区域内に選定したモデル地区を中心に活動を展開していきます。地域の区長さんと地域の福祉課題について協議するとともに、民生児童委員協議会の定例会や地域包括支援センター主催の地域ケア会議等の話し合いの場に積極的に参加しながら地域の状況を把握し、課題の発見に努めています。

また、いきいきデイクラブをはじめとした事業の拡充や、様々な事業を通じた人材育成や活動のきっかけづくりをとおして、地域住民の孤立化の解消を目指しています。

これらの活動によって、地域住民が主体となった、地域組織を中心とした「住民支え合い活動」の仕組みづくりを支援していきます。

地域福祉支援員



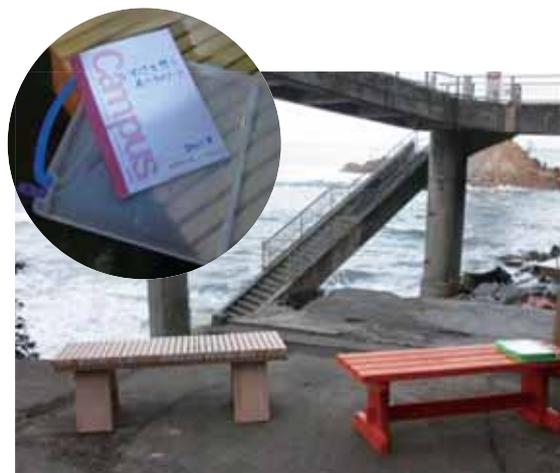
写真から見る記録



多くの支援を受け、災害救援ボランティアセンターの運営を開始！



ガレキや土砂の片付け活動の様子
多くのボランティアの皆さんのおかげで
早い復旧を遂げることができました



いわきの復興を願う想いが綴られたノート



ボランティアの皆さんによる
応援メッセージ



災害救援活動には欠かせない車両です！
土砂などを運びました



ボランティアの皆さんによる写真洗浄の様子



小学校の片付け支援に集まったボランティアの皆さん



平成 24 年 7 月九州北部豪雨の際は、本会からも職員が応援に向かいました！



仮設住宅集会所での交流サロン



訪問ルートの確認
(生活支援相談員)



平七夕まつりにて展覧した吹流し



いわきサンシャインマラソンに参加

感謝の集い

～ボランティアのみなさん
来てくれてありがとう!～

平成 23 年 11 月 12 日、いわき芸術文化交流館アリオスにおいて、約 400 名のボランティア等の参加により『感謝の集い』を開催しました。

震災から半年が過ぎ、感謝の気持ちを伝えるために、いわき市長もボランティアさんに感謝を申し上げたいと駆け付けてくださいました。

イベントの中では、震災時の写真上映会、「今だから言える『あんなこと、こんなこと』」と題したボランティアの皆さんによるパネルディスカッション、ゴスペラーズの皆さんによるスペシャルコンサート、そして、本会職員によるトン汁、おにぎりなどの炊き出しを行いました。

ゴスペラーズの皆さんは、災害救援ボランティアセンター当時から、いわき市に足を運んでいただき、いわき市の復旧・復興に尽力してくださいました。

「感謝の集い」に華を添えていただいたゴスペラーズの皆さんには、災害救援活動をとおしての“つながり”を感じるとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。



渡辺市長のあいさつ



本会職員がデザインし、
参加者に配布した缶バッジ



0246プロジェクト

2012

～来てくれて...ありがとう～

震災から1年目の平成24年3月11日、いわき市社会福祉センターにおいて『0246プロジェクト ～来てくれて...ありがとう～』を開催し、市内外からいわき市を支えてくれた多くの皆さんが参加してくれました。

会場には、全国から寄せられたメッセージや千羽鶴などを掲示し、改めていわき市の復旧・復興活動を誓いました。



2013

～いわきのこれからを共に考えよう～

災害救援ボランティアセンターの開設からちょうど2年が経過した平成25年3月16日、いわき芸術文化交流館アリオスにおいて、ボランティアの方々のこれまでの活動に対し、感謝をするとともに、いわきのこれからについて共に考えることを目的として『0246プロジェクト ～いわきのこれからを共に考えよう～』を開催しました。

復興支援者及び本会職員によるパネルディスカッション、井手綾香さんによるスペシャルコンサート、そしてカレーライスやトン汁などの炊き出し等、楽しい一時を過ごしました。

災害救援ボランティアセンターが開設した平成23年3月16日は、奇しくも井手さんのメジャーデビューの日。井手さんとボランティアセンターの「始まりの日」から2年が経ち、こうしていわきの地で巡り合えたことに不思議な縁を感じます。



参加者に配布したステッカー

震災を振り返って

区長の話からみる支援活動

あの日あの時を思い出すと、ぞっとします。同時に、人の和と絆を思い胸が熱くなります。

公民館(集会所)を避難所としましたが、100名を超える人たちが押し寄せ、大広間も2階の会議室もいっぱいになりました。停電のうえ水道も断水、灯油もガソリンも不足している状況下でした。

私は、食料や毛布の調達のため、市の対策本部と連携して対応にあたるにあたりました。区内会の役員も駆け付け、玄関ホールに事務所を設け、尋ね人等に対応するとともに発電機や仮設トイレの賃借に奔走しました。役員のうち船上生活経験者2名が、現在ある食料から朝・昼・晩の献立表を作り、避難者の栄養に配慮しました。

区内の有志や事業者、そして市災害ボランティアセンターからの多くの支援とともに、県内外からの炊き出しの好意や多くの支援もありました。感謝を実感したものです。

避難者の多くが借り上げ住宅等に移り、5月20日に避難所は閉鎖されました。安堵の気持ちとともに、これからの復興へ、気を引き締めてかからねばと思います。



沼ノ内区長 遠藤 欽也 氏

“希望の花”

津波被害を受けたある地区のおばあさん宅には、庭も家の中にも波が押し寄せ、一人で片付けをするのは無理だった。

市役所に相談すると、いわき市災害救援ボランティアセンターを紹介され、恐るおそる電話をしてみると、若い女性職員が電話に出て、優しく対応してくれた。

それから数日後、おばあさん宅に活動に入った数名のボランティアさんたちは、庭や家に入った大量の海砂をスコップでかき出したり、汚れた畳を運んだりとおばあさんが、また、そこに住めるように一生懸命、片付けや清掃活動をした。

その時、ボランティアさんは、おばあさん宅の庭に数個、小さなレンガを見つけた。ボランティアさんのひとりが、その小さなレンガを使い、おばあさん宅の庭に小さな花壇を作った。

別れ際、そのボランティアさんは言った。

『おばあさん、また来るよ。そして、今度来るときには種を持って来るよ。この花壇に種を蒔こうよ。』

おばあさんの瞳から涙がこぼれ落ちた。

この場所に花が咲くか分からない

この場所に住めるのか分からない

それでもボランティアさんは、そこに種を蒔きたいと思い、花が咲くことを願った。

そこには、きっと『希望の花』が咲く。

編集後記

「東日本大震災の記録と記憶」の発行にあたり、御協力いただいた関係機関・団体の皆様に改めて御礼を申し上げます。

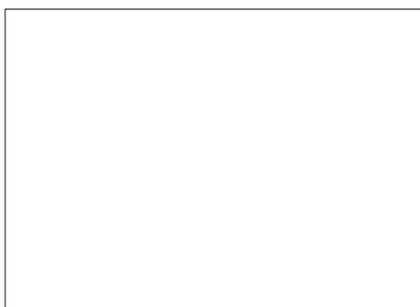
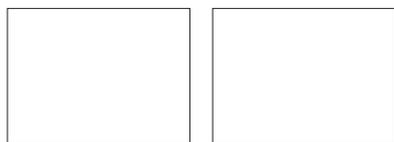
震災から2年が経過しました。社協の様々な復旧・復興活動を市民の皆様や応援をいただいた関係機関・団体にお伝えしたいとの想いで記録誌の発行に取り組んだのですが、私自身、震災当時いわき市に住んではおらず、「東日本大震災」に対してどこか客観的な視点から捉えている自分に気づかされました。

平成24年4月から本会に勤務することになり、諸先輩方から震災時の取り組みや被災された方々とのエピソードを聞き、本記録誌を作成する中で、少しずつ自らが今後の被災者支援の一端を担っていかなければという自覚が芽生えてきました。

震災から2年。諸先輩方や関係機関・団体の皆様に復旧・復興支援に尽力していただいたことにより、本会の運営と地域福祉事業の推進が可能になったと考えます。

これからの復旧・復興への道のりは長いものになると思いますが、2年間で培った経験を活かして、本会職員一同、ひとりでも多くの笑顔のために頑張りたいと思います。(Y・N)

表紙



裏表紙



津波による被害を受けた薄磯地区

ガレキ処理や家の片付けを行う
ボランティアの皆さん

ボランティアの皆さんにオリエン
テーションを行う社協スタッフ

0246プロジェクト参加者へ感謝
のメッセージ(平成25年3月16日)

東日本大震災の記録と記憶
～ともに歩む復興への道～

平成25年3月31日

企画・編集・発行 社会福祉法人いわき市社会福祉協議会
〒970-8026
福島県いわき市平字菱川町1番地の3
TEL 0246(23)3320(代)
URL <http://www.iwaki-shakyo.com>



「東日本大震災の記憶と記録」は、韓国共同募金会から寄せられた寄付金が活用されています。